



コマーシャルについては、それをテレビに流す側としては、なにがなんでも視聴者の購買意欲をそるるように、あらゆる心理効果を考えて猛然と作っているのですから、見る側もそのつもりでなきゃあ。

コマーシャルを作っている側は、つまり企業生命を賭けてたかっているわけで、それを受ける側が、慢然とただ「困るわねえ」といってほんやり平和顔なのが、なんともはや困ることなのだけれど。

どんなコマーシャルを見ても、私なんか、その絵づらや音楽を愉しめるものは愉しみながら商品名は記憶に残らない。わが子にもその習性だけは幼いうちからうつし込んでしまいました。すると気持ちが自由です。

だめなもの、すっかりひとこと「ダメ」と言ってみて、「がまんは辛いなあ。泣きたいだけ泣きイ。人生、いろいろ超えていかにやならんので。なア」といって、気持ちをとりなおすまで、待つてやります。なにか努力したあととは、親も子もニコニコと笑いあって、その笑顔百万両!! 大よろこびの共感。

世間さまの濁流の中で、やはり、親がハラをすえて子の道先案内人でなければ……。

国旗感覚

なかしま みねお
中嶋嶺雄

(東京外国語大学教授・国際政治学)

たしか昨年、十月末の夜七時頃であった。東京は赤坂の山王神社下のガソリン・スタンドに立ち寄って車の点検をしていると、老齢の外国人夫婦が二組やってきて、スタンドの宣伝用の三色旗を指さし、従業員になにやらたずねはじめた。話を通じないようなので私が聞いてみると、小さな日本の国旗を欲しいのだがどこかで買えないか、とのことである。人のよさそうな野暮ったい感じ、それに、英語の訛からして、この二組のカップルがオーストラリア人であることはすぐわかった。生涯の思い出に出いと団体旅行で日本に来て、京都、奈良をめぐって明朝早くにバンコクへ発つという。日本が大変気に入ったので、記念に日本の国旗を是非とも買いたいと思ひ、京都でも奈良でも観光地の売店を探したが見当たらない、最後の東

京の夜なので、どこかに売っていないかという。

国旗の好きなオーストラリアでは、どこに行ってもちょっとした売店にユニオン・ジャックと南十字星の小さな国旗を売っている。私もオーストラリアでの一年間を満喫して帰国した直後だったし、日豪友好のためにも、なんとかならないものかと一緒に探したのだが、わが国の国旗感覚のためでもあるのか、夜の更けるのを知らない東京のまんなか、赤坂、六本木界限かぎわなのに、ついに探し出せなかった。

後日、デパートで購入して送ってあげたら、孫たちも大喜びし、ますます日本が好きになったとの礼状が来たが、私にとっては改めて日本人の国旗感覚を考えさせられた一齣ひとしづみであった。

限度

京塚昌子

(俳 優)

年をとると、変に涙もろくなったり、怒りっぽくなったりして困ります。ある養老院の七十過ぎたおばあさんから、ファンレターを頂きました。

お便りの最後に、お小遣こづかいを送って下さいと書いてありました。私は寄付とかチャリティの類たぐいいは好きではございません。有名様とおっしゃる方もございますが、私などとてもそんな身分ではないと確信しておりますので、大抵お断わりしております。それなのに、その時だけ何故か家の人に「二万円送ってあげて。ただし名前は仮名にしてネ」と申しました。間もなくお礼の手紙が届きましたが、読んで驚きました。七十八歳の男性が好きになり世帯を持ちたい、一生の願いです、二百万借して下さい、というのです。文章もお上手でなかなかの達筆、頭がおかしいとも思えません。あの時も何かいやな予感があったのにと悔やまれました。そのうちに、「小さな親切、大きなお世話」と誰かが笑っているような気がして、むしうに腹が立って参りました。

名古屋のファンという方から、自作の編み物と称する品物が送られてきました。「チャリティ出品用に御用立て下さい」と書かれていました。うっかり開けてしまったので、見積もった金額をお送りしましたら、その後、次から次に品物が送られてきて、うちのお手伝いさんはその返送に汗を